

【他誌掲載論文】

中海におけるミズクラゲの分布と成長（予報）

檜山盛生^{*1}・宮本 康

^{*1}：鳥取県立境港総合技術高等学校

LAGUNA（汽水域研究）Vol. 16, 1-16 (2009)

Key words: Jellyfish, *Aurelia auria* (Linnaeus), spatial distribution, size distribution

近年の中海ではクラゲ類の大発生に起因する漁業被害が深刻化しつつある。こうした状況の下、クラゲ類に関する基礎的情報の収集が必要とされている。そこで、中海で優占するミズクラゲ（*Aurelia aurita* (Linnaeus)）に注目し、その出現状況（空間分布と成長の様式）を把握することを目的に野外調査を行った。湖内に設けた6定点（約5 x 5 m）にて、5、8、9、10月に船上より目視で個体数を計数した後、ランダムに採集した20～100個体の傘径を測定した。その結果、傘径は5月から8月にかけて有意に増加した反面、8月以降はこうした成長の傾向は認められなかった。加えて、5月に認められた二峰性の傘径組成は8月以降、単峰性にシフトした。これらの結果より、クラゲの主な成長は春～初夏にかけて生じること、そして、底生生活を送るポリプ（クラゲの発生初期のステージ）から浮游型のクラゲへの加入は春季以前に生じることが示唆された。また、本種は集中分布を形成することと、風が強くなるほど分布の集中度が高くなることも併せて示された。以上の結果より、中海に生育するミズクラゲの基礎的知見は得られたが、漁業者が経験的に認識しているクラゲの分布パターン（例えば風向に応じた水深分布の変化など）の全てを把握することはできなかった。クラゲ由来の漁業被害に頭を悩ませる漁業者に有益な情報を提供するためにも、継続的な調査が不可欠である。